

## 町並み保存地区の調査

重要伝統的建造物群（町並み）保存地区に選定されている大森銀山地区では、保存修理する建物の調査や古文書などの資料調査が行われています。

### ●重文旧熊谷家住宅の保存活用と調査

地区内で最大規模を誇る旧熊谷家住宅（重要文化財）では、保存修理に先だって熊谷家の暮らしの実像を解き明かすための家財調査や、古文書調査、発掘調査、石造物調査が実施されました。



#### 保存活用検討委員会の開催（旧熊谷家住宅奥乃間にて）

家財・古文書調査の成果を活かすため、調査の専門家も参加しています。

### ●安養寺本堂の修理と調査

今年度、地区内では住宅・寺院を合わせ9件の建物修理を行いました。

安養寺（浄土真宗本願寺派）は大永3年（1523）の創建とされ、もと仙ノ山にあったと伝えられています。

現在の本堂は、明治14年（1881）の記録や、修理の過程で見つかった痕跡から、寛政末期（1800年前後）の建立と推定されます。



#### 明治29年ごろの古写真

左下が安養寺、中央が清水谷、右の山裾には藤田組が経営していた製錬所が写っています。



#### 修理前の本堂正面

傾きやゆがみが激しいため、今回は土台・軸部などの調整や、瓦の葺き替えなど、半解体修理を行うことになりました。



#### 搬出作業から始まった家財調査

部屋別にラベルや荷札を一品ずつ貼り付けて運び出します。9日間、延べ150人の大がかりな作業となりました。



#### 敷地内の発掘調査

古絵図に見える建物（離れ、土蔵）の遺構を確認する試掘調査です。敷地に隣接してかつての御銀蔵小路も確認されました。



#### 寛政9年（1797）の刻書銘

須弥壇後ろの柱で見つかりました。柱を寄進した人の名前が刻まれています。